

第290回 日本皮膚科学会岡山地方会

◇専門医後実績 機構認定専門医制度（新専門医制度）の方

（重要）単位付与の受付時間がセッション開始30分前～開始15分後までとなりました（日本皮膚科学会理事会において決定）。

皮膚科領域講習

- ・ 13：30-14：15の間に受付された方は，2単位（皮膚科領域講習）（一般演題1＋2）取得できます。
- ・ 14：16-16：15の間に受付された方は，1単位（皮膚科領域講習）（一般演題2）取得できます。
- ・ それ以降に受付された方は，単位取得できません。

学術業績

- ・ 13：30-16：15の間に受付された方は，1単位（学術業績）取得できます。（ただし1年で2単位，5年で6単位まで）

WEB参加の方法と単位認定については，別紙をご参照ください。

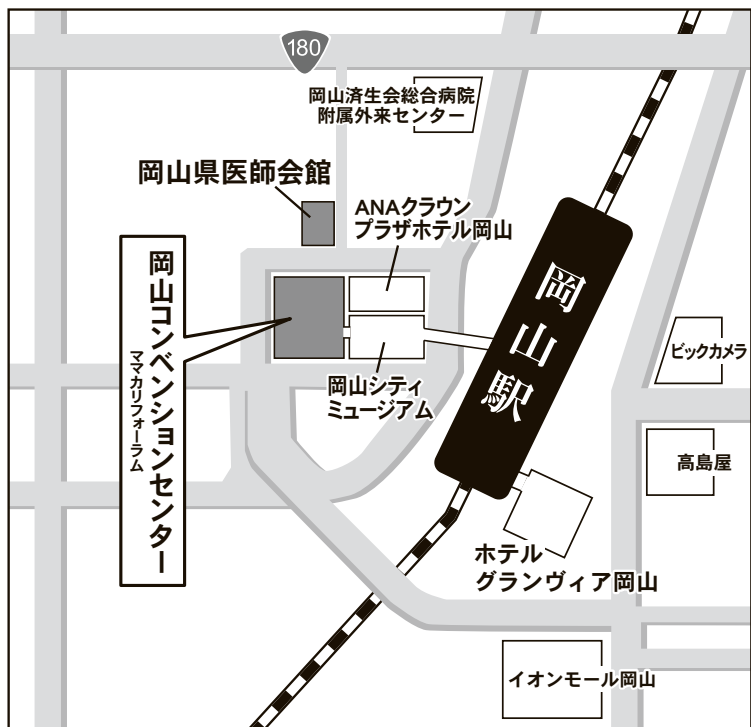
日 時 2023年9月3日（日）14時00分

（日本臨床皮膚科医会岡山県支部教育セミナー 13時00分）

場 所 岡山コンベンションセンター
1Fイベントホール

岡山市北区駅元町14-1

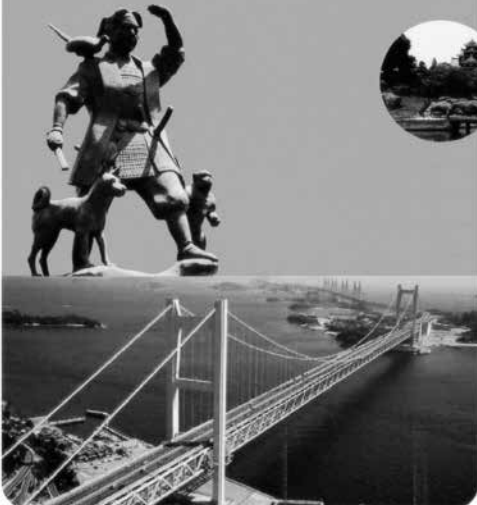
TEL.(086)214-1000



地方会会場：岡山コンベンションセンター
J R 岡山駅中央改札口より徒歩 3 分

Let's MICE

MICE : Meeting Incentive Convention Exhibition







岡山コンベンションセンター

ママカリフォーラム



〒700 0024
岡山市北区駅元町14番1号
TEL. 086-214-1000
FAX. 086-214-3600
E-mail: occ-info@mamakari.net

<http://www.mamakari.net>

I 教育セミナー (日本臨床皮膚科医会岡山県支部／大鵬薬品工業株式会社 共催)

13:00～

「乾癬と膠原病診療から見えてくる皮膚科医の楽しみ」

山口由衣 先生 (横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学 主任教授)

II 一般演題 1 (㊟:スライド供覧…3分, (無印):一般演題…5分, 討論4分)

(所属は抄録提出時のものです)

14:00～

座長:川上佳夫 (岡山大)

1. サル痘の1例

○佐藤志帆 (さとう しほ), 山下珠代, 斉藤まり (三豊総合), 中本健太, 藤川達也 (同内科)

40歳, MSMの男性。X年4月Y日発熱と咳嗽を自覚し, Y+3日後頭部に掻痒感と疼痛を伴う水疱が出現した。Y+5日当院初診時には左前腕部, 腹部に周囲に紅暈を伴う小膿疱が1つずつあり, 肛門周囲にはびらんがみられた。皮膚生検では表皮下水疱と, 内部には好酸性の封入体を有する変性・壊死したケラチノサイトを認めた。M-pox PCRは陽性で, サル痘と診断し対症療法とした。サル痘患者の皮疹や経過について文献的考察を含めて報告する。

2. 落葉状天疱瘡に膿疱性乾癬を合併した1例

○辻野美穂 (つじの みひろ), 長尾僚祐, 篠倉美理, 吉富恵美, 荒川謙三 (岡山済生会)

82歳, 男性。落葉状天疱瘡に対しステロイド内服にて治療中だったが難渋していた。全身倦怠感が出現し全身の紅斑, 膿疱が出現した。薬疹疑いで被疑薬を中止したが皮疹は改善せず, 急性胆嚢炎を発症し胆嚢摘出術が行われその後皮疹は急速に改善した。その後も膿疱, 紅斑が多発することがあり, エトレチナートを内服したところ皮疹は改善し膿疱性乾癬と診断した。天疱瘡と乾癬の合併について若干の文献的考察を加え発表する。

3. COVID-19ワクチン接種後に再燃した汎発性膿疱性乾癬の1例

○横溝紗佑里 (よこみぞ さゆり), 藤田周作, 石井美美, 浅越健治 (岡山医療センター)

80代, 女性。10歳時から58歳時まで, 感染症や出産を契機に膿疱性乾癬を繰り返し発症していた。ここ20年ほどは再燃なかったが, 今回COVID-19ワクチン接種の3日後に腹部に紅斑を生じ, その後発熱とともに皮疹が拡大した。初診時, 全身に小膿疱や膿海を伴う紅斑を認め, 組織所見と併せて膿疱性乾癬の再燃と考えた。エトレチナート内服にて皮疹・全身症状とも改善。COVID-19ワクチン接種が誘因と考えられた。

4. 単施設におけるIgG4関連疾患と診断された患者の皮疹病型の頻度

○光井聖子 (みつゐ せいこ), 加藤あずさ, 高須賀琴巳, 馬屋原孝恒 (岡山赤十字)

IgG4関連疾患は血中IgG4高値に加えて, IgG4陽性の形質細胞が各臓器に強く浸潤する疾患である。古典的な涙腺の腫脹以外に6つの病型が報告されている。しかし, IgG4関連疾患の中にIgG4関連皮膚疾患が起こる割合やその7型の出現頻度などは, はっきりとしていない。そのため, 当院の過去5年間にIgG4関連疾患と診断された52名に対して, 皮膚症状の出現頻度や皮疹病型の中での起こりやすさなどを検討した。

5. リツキシマブ（RTX）治療後COVID-19に感染した尋常性天疱瘡（PV）の2例

○宮脇秀徳（みやわき ひでのり）、山根万里子、杉山聖子、青山裕美（川崎医大）

43歳，女性。26歳でPVを発症しステロイド抵抗性のためRTX導入した。COVID-19ワクチン接種歴あり。RTX10か月後COVID-19に罹患した。2か月後PVが再燃しRTX再投与した。48歳女性PV。ワクチン接種歴なくRTX導入3週後COVID-19肺炎で入院加療した。PVは寛解。感染治療後2例ともSARS-CoV-2 SIgG陰性。RTXはCOVID-19の重症化リスク因子である。

座長：杉山聖子（川崎医大）

6. 両下腿皮膚潰瘍から診断した抗リン脂質抗体症候群（APS）の男性例

○別所史健（べっしょ ふみたか）、浦上揚介、深松紘子、
山本剛伸（川崎医大総合医療センター）

51歳，男性。1年半前から左前脛骨部，半年前から右足背に皮膚潰瘍が出現。抗菌薬内服およびアルプロスタジル外用にて加療も拡大傾向あり紹介。初診時採血にて抗カルジオリピン抗体上昇およびAPTT延長を認めた。APSを疑い，ワーファリン治療を開始したところ，潰瘍は縮小した。下腿潰瘍をきたす原因の1つとしてAPSがあり，基礎疾患に膠原病がない症例であっても鑑別に挙げて診療する必要がある。

7. 経過中に壊疽性膿皮症を合併した治療抵抗性結節性多発動脈炎の1例

○奥村健悟（おくむら けんご）、梅田善康、杉山聖子、田中 了、青山裕美（川崎医大）、
逸見祥司（同脳神経内科）

54歳，男性。X-3年，両下腿の多発する皮下硬結と小潰瘍形成，多発単神経炎，皮下組織の壊死性血管炎像より，結節性多発動脈炎（PN）と診断。PSL 1 mg/kg/日，シクロフォスファミドパルス施行。以後PSL20-30mg内服。X年，陰囊皮下結節術後に陰囊に広範な潰瘍，足背潰瘍を生じ当科受診。CRP17.94mg/dL。PN経過中に壊疽性膿皮症（PG）を合併したと診断。PSL 1 mg/kg/日とするが治療抵抗性。PNとPGは連続する疾患スペクトラムを持つ病態と考えられた。

8. 皮疹軽快後に脳梗塞と小腸出血とを発症したIgA血管炎の1例

○吉田ころ（よしだ ころ），中川裕貴（福山市民），田尻和也，十倉健彦，小林沙代，
名和 徹，植木 亨（同内科），難波昌子（府中市）

52歳，男性。下腿の紫斑の増悪でX+5日に当院に紹介，IgA血管炎の疑いにてPSL 20mg内服を開始し紫斑は消退傾向であった。X+18日にPSL終了も右上肢脱力感と倦怠感あり，血液検査で炎症反応上昇も認め入院，X+19日にMRI検査で脳梗塞の診断となりメチルプレドニゾロン500mg 3日間投与，X+22日から繰り返す小腸出血を発症した。IgA血管炎は皮膚所見が改善傾向であっても重篤な全身症状がみられることがあり，文献的考察と共に報告する。

9. プレドニゾロンとメトトレキサート内服併用療法が有効であった線状強皮症の小児例

○村田愛美（むらた まなみ）、梶田 藍、三宅智子、川上佳夫、森実 真（岡山大）、
八代将登（同小児科）、浅越健治（岡山医療センター）

7歳、女児。7カ月前に右前腕に痒みを伴う紅色の皮疹が出現し、次第に拡大した。初診時、右肩から母指にかけて硬結を伴う帯状の褐色局面を認め、MRIでは脂肪抑制T2強調画像で右肩関節近傍の筋肉および周囲に浮腫性変化がみられた。病理組織学的には真皮から脂肪織内に膠原線維の増生を認めた。抗核抗体、抗ss-DNA抗体、抗カルジオリピン抗体が陽性。プレドニゾロンとメトトレキサート内服併用療法にて症状は軽快した。

10. 皮膚動脈炎の治療中に下腿潰瘍が増悪し、calciphylaxisの診断でLDLアフェレシスを行った1例

○深松紘子（ふかまつ ひろこ）、山本ちひろ、山本剛伸（川崎医大総合医療センター）、
大城義之（同内科）、木村摩耶（岡山協立）

60代、男性。糖尿病性腎症で透析導入した5年後に下腿潰瘍を生じ、皮膚生検で皮膚動脈炎と診断した。PSL30mgで改善したが、5ヶ月後にPSL18mgに減量した後に潰瘍が拡大した。PSL40mgに増量しシクロホスファミドパルスを施行したが改善せず、皮膚生検でcalciphylaxisと診断した。レオカーナ[®]によるLDLアフェレシスを行い、下腿潰瘍は改善した。レオカーナ[®]は、リボ蛋白やフィブリノゲンの吸着と血管作動性因子の産生作用があり、calciphylaxisの新たな治療選択肢である。

Ⅲ 一般演題2（㊤：スライド供覧…3分、（無印）：一般演題…5分、討論4分）

（所属は抄録提出時のものです）

16：00～

座長：岡崎布佐子（岡山市立市民）

11. 乳児の舌に異物の堆積と黒毛舌を生じた1例

○藤田周作（ふじた しゅうさく）、浅田志乃舞、石井美美、浅越健治（岡山医療センター）、
丸中秀格（同耳鼻いんこう科）、末延耕作（同形成外科）

1.5ヶ月、女児。生後3週ごろ舌背の黒色病変に気づき、増大隆起するため当科を受診。舌背中央に、なだらかに隆起しやや固く触れる爪甲大黒色局面を認めた。黒毛舌、正中菱形舌炎、腫瘍性疾患などが鑑別にあがった。真菌陰性。病変は物理的に除去可能で線維性異物と確認された。病理標本にてbotryomycosis様の菌塊を認め、培養ではグラム陽性球菌を複数検出。線維性異物の堆積とそれに誘発された黒毛舌と考えた。

12. Congenital Melanotic Macule of the Tongueの1例

○浅田志乃舞（あさだ しのぶ）、横溝紗佑里、藤田周作、石井美美、
浅越健治（岡山医療センター）、中村和恵（同新生児科）

0歳、男児。出生時より舌背に色素斑を認め、生後6日目に当科を受診。併存疾患はなく、母親の既往歴・内服歴にも特記すべきことはなかった。初診時、舌背に径約1cmの表面平滑な黒褐色を認め、congenital melanotic macule of the tongueが疑われた。生検は施行せず経過観察中。成長に伴う増大はあるが、色調など外観に著変はない。

13. 筋肉内脂肪腫の6例

○長尾僚祐（ながお りょうすけ）、辻野美穂、篠倉美理、吉富恵美、荒川謙三（岡山済生会）

脂肪腫は最も頻度の高い軟部腫瘍であるが、筋肉内や筋間に存在する場合がある。それらは筋肉内脂肪腫と呼ばれ、脂肪腫全体の1%未満を占めるとされている比較的稀な疾患である。当院では2022年から2023年にかけて6例の筋肉内脂肪腫を経験した。臨牀的、病理学的特徴と文献的考察を合わせて報告する。

14. 表在性肢端線維粘液腫の1例

○徳田真優（とくだ まゆう）、下宮大輝、衣斐葉々、大谷稔男（倉敷中央）、
長尾由理（同形成外科）

73歳、男性。数十年前より右示指の爪甲に近接して淡紅色結節を認めた。3か月前から徐々に増大したため受診した。初診時の径は約2cmで疼痛を伴った。MRIでは、T1強調像で低信号、T2強調像で辺縁部が高信号、中心部が不均一な低信号を呈した。病理組織学的には、紡錘形細胞が線維性あるいは粘液様間質内に増生し、紡錘形細胞はCD34やビメンチンが陽性、CD99が弱陽性であった。表在性肢端線維粘液腫と考えた。

座長：梅田善康（川崎医大）

15. 術後放射線照射後、化学療法を継続し骨露出性潰瘍のまま10年を経過した頭部血管肉腫の1例

○池澤勝吾（いけざわ しょうご）、横山恵美、川上佳夫（岡山大）、
樫野おり（尾道市立市民）、森実 真（岡山大）

72歳、女性。4か月前に誘因なく頭頂部に紅色皮疹が出現し徐々に増加。頭頂部に不整形の紫斑を伴う最大28×16mmの淡紅色結節を7個認めた。帽状腱膜下で一塊に摘出し、病理組織学的に不整な血管腔が増生し異型のある紡錘形細胞が真皮から皮下脂肪組織下層に浸潤していた。術後放射線60Gyを照射しパクリタキセル投与を開始した。再発や他臓器への転移なく10年が経過し、頭頂部に5×4cmの骨露出性潰瘍が持続している。

16. ICI術後補助療法中に多発転移を認めたBRAF陰性足底悪性黒色腫の1例

○加持達弥（かじ たつや）、谷口真菜、戸井洋一郎、秀 道広（広島市民）

82歳、女性。2年前から右足底の黒色斑を自覚。画像上、転移を認めず、腫瘍切除＋植皮、左単径SLN生検を実施。悪性黒色腫T2aN1aM0 stageIIIA（BRAF変異陰性）と診断。ニボルマブ術後補助療法を開始4か月後に多発リンパ節転移、皮膚転移を認めた。ニボルマブ＋イピリムマブ併用療法3コース投与後、ぶどう膜炎、薬剤性肺炎を認め、PD判定。DTIC単剤投与に変更し、5コース投与後、永眠された。

17. 菌状息肉症の経過中に大細胞転化し多発の皮膚・皮下腫瘍を主体に急速な進行を示した1例

○坂田伽奈子（さかた かなこ）、川本雅也、松田吉弘、藤本裕子、平井陽至、森実 真（岡山大）、林野健太、浅田 騰（同血液内科）

45歳，男性。エホバの証人。初診10年前より全身に紅褐色斑出現。X年に当科受診し，精査の結果，紅斑・局面が主体で菌状息肉症 T2aN1aM0 stage2A と診断。局所治療と経口単剤化学療法にて病勢は安定していたが，X+2年8月頃より腫瘍形成が目立つようになり，同年10月ブレンツキシマブ ベドチン導入。一時消退するも，X+3年1月左膝窩に手拳大の皮膚・皮下腫瘍形成。生検にて大細胞転化と診断。モガムリズマブや多剤化学療法に不応で同年5月に永眠。

18. 国立がん研究センター中央病院での研修について

○日置紘二郎（ひき こうじろう）、梅田善康、田中 了、青山裕美（川崎医大）、山崎直也（国立がん研究センター中央）

悪性腫瘍において国内屈指のハイボリュームセンターである国立がん研究センター中央病院には，年間400人以上の皮膚癌患者（うち悪性黒色腫患者約150人）が新患として受診する。昨年度皮膚腫瘍科では183例の全身麻酔手術を施行した。そのような病院で，コロナ禍真っ只中の2020年4月から2023年3月までの3年間，充実した研修を行うことができた。腫瘍専門病院ならではの様々な経験や研修内容について発表する。

IV 日本臨床皮膚科医会岡山県支部総会・岡山県皮膚科医会活動報告

MEMO

【演者の皆様へ】

- ◇発表データは、原則としてメディア（CD-R, USBメモリのみ）の持込です。
（ファイルサイズは30MBまで, Windows Microsoft PowerPointは2013以降のバージョンに対応します。）
- ◇PCオペレーター立会いのもと動作確認を行いますので、ご発表の30分前までにPC受付にご持参ください。
- ◇ご自身のPCでのご発表は受付致しかねます。
- ◇Macintoshで作成されたデータはWindows環境で動作確認のうえデータをお持ちください。
- ◇プログラム用抄録と日皮会誌用抄録を兼用します。演題発表後、抄録内容に変更がある場合は、地方会終了後3日以内に、変更した抄録を事務局まで送信ください。届かなかった場合は、そのまま掲載しますのでご了承ください。

【会員の皆様へお願い】

- ◇e-mailでの連絡網を作成しておりますので、未登録の方やアドレス変更した方は事務局宛にお知らせください。【事務局E-mail：dermaok-npo@cdo.sakura.ne.jp】
- ◇氏名の変更、勤務先やご自宅の住所・電話番号等の変更時には必ずご連絡ください。会員名簿の発行は行いませんが、会員情報管理のためご協力ください。
- ◇日本皮膚科学会岡山地方会の最新情報、過去のプログラムは下記のURLで閲覧できます。
（会員限定）
<http://www.derma-okayama.net/chihoukai/index.html>

第291回 日本皮膚科学会岡山地方会演題募集

日 時：2024年1月20日（土）14：00より

会 場：岡山コンベンションセンター

演題締切：2023年11月5日（日）必着

出題方法：出来るだけメールにて事務局アドレスまでお申し込みください。

- 件名は「岡山地方会演題申込み」とご記入ください。
- 演題締切日以後、3日を経過しましても受領確認メールが届かない場合は、必ずお問い合わせください。

プログラム用抄録兼日皮会誌用抄録：様式は問いませんが下記要領を厳守の上、Wordにて作成しメールに必ず添付してください。

- 抄録用紙に「スライド供覧」「一般演題」の別を明記。
- 題目：字数制限なし。 ◦ 本文：200文字以内
- 演者名：口演者に○印。姓名の間にスペースを入れない。但し姓または名が一文字の方は○スペース○○，○○スペース○とする。
- 所属：「病院」は省略。（○○）（岡山大）（同内科）（岡山市）等。
- 英字表記：半角で記入。題目、本文中の固有名詞、菌名（必ずイタリック体）以外はすべて文頭でも小文字。
- 数字：算用数字を使用（…の1例。65歳。）

《見本》

一般演題

……………の1例

○岡 一郎，岡山 一，岡山二郎（岡山済生会），岡山花子（同内科）
65歳，男性。……………。

事務局：〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学分野内

日本皮膚科学会岡山地方会事務局

e-mail：dermaok-npo@cdo.sakura.ne.jp

FAX：050-3488-8350

【お知らせ】

第292回 日本皮膚科学会岡山地方会

2024年5月18日（土） 14：00（予定）

岡山コンベンションセンター